



## 配置薬

### 一つの妙薬が生んだ富山の英知 ミャンマーに伝える

「富山のくすり」には、こんな逸話が残っている。1690年、三春藩（現・福島県）の藩主は、江戸城で腹痛に苦しんでいた。居合

わせた富山藩の藩主が、印籠から妙薬を取り出し飲ませたところ、うそのように腹痛が治まったではないか。それを見た諸国の大名たちは、その薬を自国でも販売してほしいところぞって申し出たという。

富山県庁の「くすり政策課」や、富山大学にある、日本で唯一の伝統医薬学の研究機関「和漢医薬学総合研究所（和漢研究所）」は、この地で栄える製薬産業の重要性を物語っている。

富山発祥の配置薬は、薬の販売



富山県を訪れたミャンマー伝統医療局の局長（右から4人目）と職員ら。家庭に届ける薬の内容を売薬さん（同3人目）と一緒に確認した

## ミャンマーの健康を守る、 富山の配置薬システム

一家に一箱の置き薬。いざという時の常備薬は心強いものだ。江戸時代に富山藩で発祥した配置薬は、日本各地の人々の健康を守ってきた。国内有数の医薬品製造拠点となった富山県は、行政・大学・企業の「オール富山」で、その知恵をミャンマーに伝えている。



糖尿病に効く薬草として、数種類の植物がミャンマー伝統医療大学に展示されていた



富山県の製薬企業の工場を見学する伝統医療局の職員ら

薬会社などから70人以上の参加があった。

国内マーケットに代わる薬産業の進出先として、ミャンマーへの関心が高まる一方、現地には課題もある。国営工場で作られる伝統医薬品を収めた薬箱は、一箱10ドル。家庭で気軽に買える値段ではなく、現在は、日本財団の支援の下、伝統医療局から村ごとに一箱が提供されている。「富山の配置薬の特長は、『先用後利』の仕組みによるビジネスとしての継続性です。将来的には、民間企業の活躍も期待しています」と紺野さん。

富山県は、この他にも、昨年11月にJICA東京が厚生労働省や公益社団法人国際厚生事業団と連携して行った、医薬品の適正な供給管理を目指す研修で、ブラジルやイラクなど9カ国の薬剤師と薬事行政官を受け入れた。同研修への協力は30回を数える。

行政、大学、企業がそれぞれの医薬品分野の知見を生かしながら、産官学の「オール富山」で世界に貢献する富山県。紺野さんは、「地元の経験を生かし、世界の人々の健康を守ることに貢献できればと思います」と、配置薬システムの普及と定着に意欲を見せる。地域の英知・配置薬システムを通じて築かれる富山県とミャンマーのつながりは、それぞれの地を一層明るく照らす宝となるだろう。



富山県厚生部くすり政策課の藤岡俊太郎さん（左から2人目）らとミャンマーを視察した紺野さん（左から4人目）。伝統医療局の職員らと共に

員である売薬さんが、各家庭や企業を回って薬を補充しながら、使った分だけ後から代金を回収する『先用後利』の仕組みが特徴だ。このおかげで、私たちは急な体調不良に見舞われても、手元の薬箱にある薬をすぐに服用することができ。この富山の英知を、ミャンマーの人々の健康維持に生かす取り組みが進んでいる。

富山大学和漢研究所は、2014年からJICAのプロジェクトに協力し、県や地元製薬会社との連携の下、研修員の受け入れなど

を通して、ミャンマーの伝統医薬品の品質改善と、配置薬システムの普及を支援してきた。これに先立つ09年から、公益財団法人日本財団がミャンマー保健省と共に、同国全土の約3万の村落を対象に、伝統医薬品を活用した配置薬システムの普及事業を展開しており、JICAのプロジェクトはこれと連携するかたちで実施されている。

### 良質の伝統医薬品づくりを 産官学で全面サポート

ミャンマーでは、薬用植物などを使った伝統医薬品を保健省伝統医療局が管轄する国営工場で作っている。だが、同国では偽薬や粗悪品の流通が問題となっていた。「昨年12月に国営工場を視察しましたが、設備は古く、衛生管理も旧態依然としていました。伝統医療局は、当初、私たちの視察に消極的でしたが、有りのままを見せてもらえたことで課題が明確になりました」。そう話すのは、プロジェクトの総括を務める富山大学和漢研究所の紺野勝弘教授だ。

### 世界に羽ばたく、薬都とやま、 地元の産業振興を願って

今回のプロジェクトでは、伝統医療局の品質検査員2人が、大学だけでなく、県や県内の製薬会社の協力も受けながら、3カ月間、化学分析などによる薬の試験方法について実践的な研修を行った。また、昨年6月には伝統医療局の局長や伝統医療大学の関係者などを含む8人が富山県を訪ねた。彼らは、県の薬事研究所などを訪れたほか、製薬会社の工場を見学し、徹底した品質管理の重要性を学んだ。さらに、実際に売薬さんに同行して家庭訪問を体験するなど、配置薬システムの運営方法を身をもって学ぶ機会となった。

富山県厚生部くすり政策課の藤岡俊太郎さんは、「途上国支援をはじめとする薬の国際展開は、地元の基幹産業を活性化する上でも重要です」と話す。昨年6月には、研修員が訪問する時期に合わせ、ミャンマーの医薬品業界を取り巻く環境などについて考えるシンポジウムが開かれ、県内の製